

9月25日（日） ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 21章 1節～17節（新約 39頁）

メッセージ 「ろばに乗って来られる王」

「シオンの娘に告げよ。『見よ、お前の王がお前のところにおいてになる、
柔和な方で、ろばに乗り、荷を負うろばの子、子ろばに乗って。』」

（マタイによる福音書 21章5節）

（1）イエス様の一行が都エルサレムに到着し、町の中へと入る記事が本日の箇所です。オリーブ山は、エルサレムから谷を間に挟んで北、北東、東にいくつもの頂上を持って見える小さな山脈の一部です。このオリーブ山はイエス様の生涯と深い結びつきがある場所です。この山沿いの町、ベトファゲでイエス様は子ろばを調達し、エルサレムへと入りますが、イエス様はその日のうちにエルサレムを出て、オリーブ山の傾斜地にあるベタニアに行き、そこに泊まりました。

（2）イエス様はベトファゲで調達した子ろばに乗ってエルサレムへ入られました。マタイ福音書では4節で、それは預言者の言葉が実現するためであったと報告されています。5節に出てくる言葉は、旧約聖書ゼカリア書のことばであると言われていす。ゼカリア書9章9節にはこうあります。

「娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歓呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って」。

マタイ福音書ではゼカリア書の「勝利を与えられた者」が省かれています。エルサレムでこれから起こる出来事、受難、十字架の出来事を念頭に置いて省かれたのかも知れません。また、ゼカリア書の「高ぶることなく」が、マタイ福音書では「柔和な方」となっています。高ぶることのない、

柔和な王。それがエルサレムに入られた時のイエス様の姿です。おおよそ、他の王の凱旋とはほど遠い姿です。しかし、群衆の歓迎する声は高らかに響きます。「**ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ**」（9節）。イエス様を迎える人たちの声が響き、イエス様は都中の者たちの注目を集めました。

（3）そのイエス様が、神殿の境内で騒ぎを起こします。それが、12節からの記事です。この言葉は預言者イザヤやエレミヤの言葉の引用であるといわれています。エレミヤ書7章10節～11節にこうあります。「**わたしの名によって呼ばれるこの神殿に来てわたしの前に立ち、『救われた』**と言うのか。お前たちはあらゆる忌むべきことをしているではないか。わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる」。これは神殿を厳しく批判する預言の言葉です。イエス様の行為は思ったよりも小規模だったと言われていすし、騒ぎが起こるとすぐに駆けつける神殿警備隊も出動していません。しかし、この神殿を批判する言葉と振る舞いは、イエス様が十字架につけて殺される理由の一因ともなりました。

柔和な王の姿と神殿での激しい振る舞い。しかしどちらもイエス様の姿なのです。

（多田玲一牧師）